



航空会社

各航空会社により必要書類（医療機器を持ち込む場合は所定の書類など）や条件、また、それぞれの空港や使用する機材により対応可能な事が違うので必ず、事前に各航空会社の専用デスクに連絡を入れ必要事項の確認をしてください。

搭乗予定日まで十分な余裕を持って問い合わせてください。

航空会社での主な確認事項

①お客様の状況

お体の状況や必要なお手伝い等の内容と必要書類の確認

②医療機器の詳細確認

医療機器名、メーカー（製造元、発売元、総代理店名など）、製品名・型番（ラベル）

危険物に該当しないバッテリー種類・容量かの確認

機内に収容できるサイズ・重量かの確認

ご自身の酸素ポンペを持ち込みにするか、その規格（一定条件あり）

③医療機器を使用するタイミング

医療機器を機内持ち込みにするか、受託荷物とするか

機内で利用する場合、電波・電磁規格が航空機器へ影響しないかの確認

④車いすに関して

手動か電動か（折りたたみの可否）

サイズ（奥行・横幅・高さ・重さ。折り畳み可能時は折り畳み時のサイズ）

電動の場合バッテリーの種類と予備の個数

ANAの貸出品例



座位保持補助ベルト



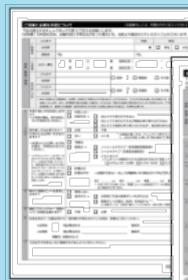
アシストシート



機内に入れるフルリクライニング車いす



点滴フック



ANAの「診断書」と「必要な手配」の書式

娘を飛行機に乗せた時に耳抜きができず辛そうでした。飴を舂めさせたり飲み物を与えたりするのも効果的なのですが、娘は口からは飲食できないため、耳栓を使ったら効果的でした。



参考

JAL：お手伝いを希望されるお客さまへのご案内

<https://www.jal.co.jp/jalpri/>

ANA：おからだの不自由なお客様へのご案内

<https://www.ana.co.jp/ja/jp/serviceinfo/share/assist/>

【ANAの対応について】

ANAでは「おからだの不自由な方の相談デスク」を設けております。障がいの軽度重度にかかわらず、お手伝いを必要とされているお客様おひとりおひとりのご要望内容は異なってくるため、

- ・普段どのようにお過ごしであるのか
- ・座位は保てるのか
- ・医療機器の種類・サイズ・メーカー等
- ・空港まではどのようにお越しいただけるのか

などを細かくお尋ねをした上で診断書等の提出もお願いし、空港へ引き継ぎをしております。

介護タクシー・福祉タクシー

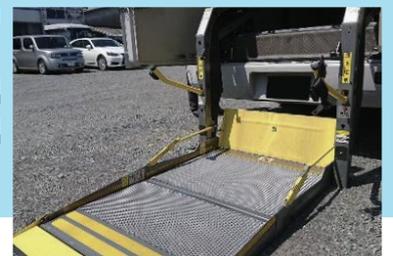
地域によって異なりますが、一般的に介護タクシーは運転手がヘルパー2級などの介護福祉関連の資格を持っており、乗降の手伝いの他、介護も行い、福祉タクシーは運転手が資格を持っていない場合、乗降の介助ができないこともあります。

車いすの介助もしながら、観光ガイドも行う観光介護タクシーも全国で増えてきています。

車種は様々なので、車いすのサイズや形状を伝え乗車可能か確認します。

車種により後方が横からリフトが下がるので、十分な駐車スペースと平坦な場所が必要です。

医療機器を利用している場合、電源を必要とすることがあるので電源の有無と位置の確認もします。



3 宿泊施設

移動経路および居室内に段差もなく、十分な通路幅が確保されており、車いす利用者でも使いやすいトイレ・浴室があるバリアフリールーム（ユニバーサルルーム）がある宿泊施設が良いのですが、宿泊施設に1部屋程度しかないことが殆どです。

また、宿泊施設により部屋のタイプは様々で、必ずしも全ての車いす利用者が使いやすいとは限りません。

写真などで部屋や浴室、トイレなどの状況を案内することが望まれます。

また、貸出備品として

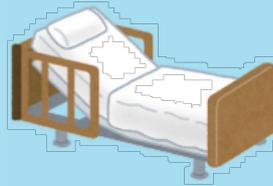
- 電動ベッド
- 車いすタイプのシャワーチェア
- 洗面器
- 空気清浄機
- 加湿器
- 延長コード

などがあると便利です。

事前に、荷物などが送られているケースもあるので部屋入れしておくといった配慮があると良いでしょう。

電動ベッドなどがホテルに貸出備品としてない場合、福祉機器貸出業者などからのレンタルも可能です。

ただし、事前に送る荷物等については宿泊施設に連絡をし、特に大型のものについては搬入の可否も含め確認が必要です。



最近のホテルは枕元の電源がUSBタイプだけ、ということがあります。その場合、就寝時に医療機器の電源が確保できないので延長コードがあると便利です。

また医療機器など電気を利用することが多いので電源タップが多いものだとありがたいです。



当ホテルでは、「普段おうちでどのように過ごされているのか」とお伺いしています。

おうちと同じ環境が整えられるようなサービスを提案し提供することで、お客様も安心して滞在いただけるようです。

お越しいただいたすべてのお客様にとって安全・快適な滞在ができるよう普段からユニバーサル対応の従業員教育をしておりますので、スタッフも「どのようにすれば受け入れられるか」を常に考えております。

すぐに回答できないことも、社内や関係先と検討し、皆で知恵を出し合い課題解決をしています。



4 食事

嚥下機能に障害がある人が多く、嚥下機能調整食などの配慮が必要です。

人によって噛む力と飲み込む力が違うため、どのようなお食事を普段されているのかお客様と確認し、食事箇所と対応を検討しましょう。

一般的に

- 一口大
- きざみ
- とろみ
- ペースト
- 経管栄養

といった食事形態があります。

おかげだけでも用意してくれるとありがたい、という声もあります。

もし、飲食店側の調整が難しいようであれば、ご家族で調整いただくことも検討します。

その際に

- 一口大に切るための包丁やハサミ
- きざみ食を作るためのブレンダー
- ペースト食を作るためのミキサー

等の貸出があると調整しやすいです。

機器を自席で操作しやすいよう延長コードや、口に運びやすく食事がしやすいカトラリーなどの貸出もあればよいです。

経管栄養の方は、栄養剤を吊るすためのスタンドが必要です。



大人向けの食事



子ども用調整食



ペースト食



きざみ食



貸出用カトラリー

ある旅館に泊まった時に、大人の食事を子どもが食べやすいようにアレンジしたペースト食を作ってくれました。息子は口頭分離という気管切開をしており、味や香りが私たちより微かにしか分からないので喉越しの良い酸っぱいものや果実、ゼリーなどを好みます。今回、メカブが細かく刻まれたものが出ました。トロトロしていて喉にひっかかることなく、とてもよく食べていました。ちょっとしたことなのですが、料理長さんがひと手間かけてくれたことが分かるだけで、「この旅館に来て良かった」と思い、いつまでも思い出に残るものとなっています。



栄養剤は吊るして注入しますが、医療用スタンドでなくても構いません。カメラの三脚を使ったり、S字フックを壁にかけたりと代用品でも助かります。

息子は栄養剤を注入する際は車いすに座ったままより、ベッドに横たわり頭を上げた姿勢が楽なようです。ある食事場所で、その話をしたら、サマーベッドを用意してくれたのです。とても嬉しい対応でした。



5 トイレ

トイレはおむつ交換のケースが多く、乳児以外でも利用できる大型ベッドや立位が可能な場合は着替え台が必要です。

おむつを捨てられるゴミ箱があると良いです。

多機能トイレと言っても施設により設備は様々なので、写真等で詳細な情報が必要です。

サマーベッドと周囲を段ボールで囲ってくれたものをご用意いただきました。簡易的ではありますが、安心しておむつの交換ができました。サマーベッドがない場合、クッション性のある敷物と段ボールの囲いでも良いと思います。



様々な多機能トイレ



写真提供：コンビウイズ株式会社



旅行経験者から

重症心身障害児（者）との旅行経験のあるご家族や施設職員の方からのご意見です。

観光関連事業者としてできる課題解決はいろいろあります。皆で考えていきましょう。

人から好奇の目で見られたり、「車いすが邪魔」と怒られたり、食事場所でも断られたり、とても残念な気持ちになりました。



改善点のあった事例

急に体調が悪化した場合、どうすれば良いのかというのが一番の心配ごとです。



車いすの大きさ、医療器具などの制限、トイレの情報、ホテルの部屋やお風呂の状況、観光地のバリアフリー状況など事前に調べることが多過ぎるうえ、情報がないことも多いので行けるのに行けないのか判断に困ることがあります。ついつい、経験された方のブログなどを参考に旅先や宿泊先を選んでいきます。



とにかく、何かあった時にないと困るものは全て詰めこみました。1～2泊の旅行でもスーツケース1つが子どものものです。

おむつだけでもスペースの1/4を取ります。その他、携帯用酸素ボンベ、アルコール、吸引機、食事を刻むためのミキサー、薬も必要以上持ったため、大きな荷物を持ちながら、子どもの車いすを押しての移動は大変でした。



現地では予想外のことがたくさん起きたので、ヘルパーさんなどの人手や現地でのサポート体制が必要でした。



当日に必要ではない荷物は、事前に宿泊施設へ送っています。

飛行機で帰宅する時は、空港で荷物を預けた際に家まで届けられるサービスもあるので活用しています。



【参考】

JAL (国内線) 手ぶらでおでかけサービス

<https://www.jal.co.jp/dom/baggage/tebura/>

ANA (国内線) 快速宅空便

<https://www.ana.co.jp/ja/jp/domestic/prepare/baggage/delivery/>

今後に活かしたい事例

バリアフリー情報を集めたマップなどが発信されているのは、とても役立ちます。

多機能トイレといっても大型のおむつ交換台がなかったりするので、写真付きで発信されていると確認ができ助かります。

【参考】

沖縄県バリアフリーマップ

<http://okinawa-bf-map.jp/>



医療ケアや入浴介助なども旅行中に行ってくれるヘルパーさんを手配しました。

子どもを安心して任せられるので、夫婦みずいらずの旅行を楽しむ時間もできました。

【参考】

バリアフリー旅行支援 (沖縄) Kuku

<https://kukuokinawa.com/service/travel/>



旅行前は下調べが大変ですが、情報を一元化している観光案内所があると細かい相談にものってくれたり情報をもらえたりするので、旅行前、旅行中に多いに活用しています。

【参考】

沖縄バリアフリーセンター

<http://barifuri-okinawa.org/BFtourcenter/>

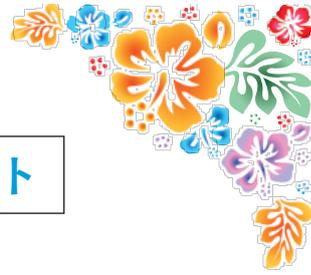


体調が悪くなくてもすぐにホテルに戻れるよう、日程は詰め込まず観光地に近い所で宿泊先も決めています。どうしてもホテルの滞在時間が長くなりますが、子どももホテルにいただけでも楽しいようです。食事をペーストにしてくれたり、段差のない部屋を用意してくれたり、階段しかないところでは車いすを観光客の人が一緒に運んでくれたり、そんな些細なことでもいろんな幸せを感じています。



完全なバリアフリーの観光なんて実は求めていなくて、そこで触れ合う方々がどんな優しさ、気配りをしてくれたかということの方がとても思い出に残っています。





沖縄 重症心身障害児の旅行サポート

【しょうがい者・こうれい者観光案内所】

沖縄バリアフリー ツアーセンター

那覇空港国内線旅客ターミナル1階到着ロビー
那覇 国際通りにもあり
電話番号：098-858-7760



バリアフリー対応の観光地・バリアフリールームのある宿泊施設・介護タクシー・レンタカー・車いす対応トイレ・オストメイト対応トイレ・点字の観光パンフレットのある施設・透析旅行・入浴介助・車いすレンタル・ベビーカーレンタルなど旅前から問い合わせに応じています。レンタル品は宿泊施設などへの配送も可能な他、空港、国際通りの両観光案内所で貸出／返却も可能。

福祉用具貸出として

介護食調理器具（フードプロセッサー、ミキサー、マジックブレッド、ハンドブレンダー、介護スプーンなど）、入浴補助用具、チェアボード、バギーなどのビーチ用品

などがある。

【一般社団法人 Kukurū】

Kukurū (くくる)

沖縄県那覇市字真地 216-17
電話番号：098-888-5996（平日 9:00～17:30）



主に医療的ケアが必要なお子さんご家族を支援する事業を実施し、障害のある方だけでなく、地域の方や一般の方も利用できる複合施設、「小児在宅地域連携ハブ拠点 Kukurū +」（小児在宅クリニック・訪問看護・介護・リハビリ・医療型短期入所・カフェ等）を運営。

子どもから大人まで、医療的ケアも含めたバリアフリー旅行支援を行っている。

「せっかくの楽しい旅も介護に追われて終わってしまう」、という要望に応え「レスパイト」サービスも展開。

旅行コーディネート（移動手段・宿泊地・観光・医療相談など）

- ・ 介護士・看護師配置による同行介護
- ・ 旅行先での入浴介助（入浴補助用具の貸出）
- ・ 海水浴介助（水陸両用車椅子・水中ハンモック・浮棒等のビーチ用品の貸出）
- ・ 医療機器の貸し出し
- ・ 出張型レスパイトサービス（宿泊地・観光地で、マンツーマンで見守りを行い、障害の程度に応じて、最適な人材（看護師やヘルパー）を配置）

※地域の訪問看護ステーションや医療機関との連携も行っている。

参考資料

国土交通省：国土交通省所管事業における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針

<https://www.mlit.go.jp/common/001108694.pdf>

観光庁：高齢者・障害のある方などをお迎えするための接遇マニュアル【旅行業編】

<https://www.mlit.go.jp/common/001226566.pdf>

